

## 会社概要

(2019年12月31日現在)

商号 ダイトロン株式会社  
Daitron Co., Ltd.  
設立 昭和27年6月24日  
本社 大阪市淀川区宮原四丁目6番11号  
TEL.(06)6399-5041(代表)  
資本金 22億70万8,560円  
事業年度末日 年1回(12月)  
従業員 823名(連結)

## 役員

(2020年3月30日現在)

代表取締役社長	前 績行	取締役	和田 徹
取締役	土屋 伸介	常勤監査役	氏原 稔
取締役	毛利 肇	監査役	八木 春作
取締役	木村 安壽	監査役	北嶋 紀子

(注)

1. 取締役 木村 安壽氏及び和田 徹氏は、会社法に定める社外取締役であります。
2. 監査役 八木 春作氏及び北嶋 紀子氏は、会社法に定める社外監査役であります。

## 株主メモ

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで  
定時株主総会 毎年3月下旬  
基準日 定時株主総会 毎年12月31日  
期末配当 毎年12月31日  
中間配当 毎年 6月30日  
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社  
株主名簿管理人 事務所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(電話照会先) TEL.0120-782-031(フリーダイヤル)  
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

ウェブサイトURL <https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

- ・住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について  
株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。  
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。
- ・未払配当金の支払について  
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

## ダイトロン株式会社

〒532-0003 大阪市淀川区宮原四丁目6番11号  
TEL.(06)6399-5041 FAX.(06)6399-6041

## ウェブサイト

IR情報を当社のウェブサイトに掲載いたしておりますので、こちらからもご覧いただけます。

<https://www.daitron.co.jp/>



# Daitron

# ダイトロン通信

第68期  
年次報告書 [2019年1月1日~2019年12月31日]



## Creator for the **NEXT**

ダイトロン株式会社

証券コード 7609



## 巻頭対談

1998年に当社のCI(コーポレートアイデンティティ)導入を担っていただいた株式会社WAVEの西岡譲二社長をお招きし、ダイトロングループの現状や今後の事業戦略などについて対談を行いました。

ダイトロン株式会社  
代表取締役社長

前 績行

株式会社 WAVE  
代表取締役社長

西岡 譲二

### 2019年度は増収減益も、海外や新規事業は売上拡大。

**西岡** 2020年3月30日で社長就任10年目を迎えられたとのこと、おめでとうございます。2019年度は第9次中期経営計画の3年目、また10年スパンで策定された2020ビジョンの1年前にあたる年でしたが、業績はいかがでしたか。

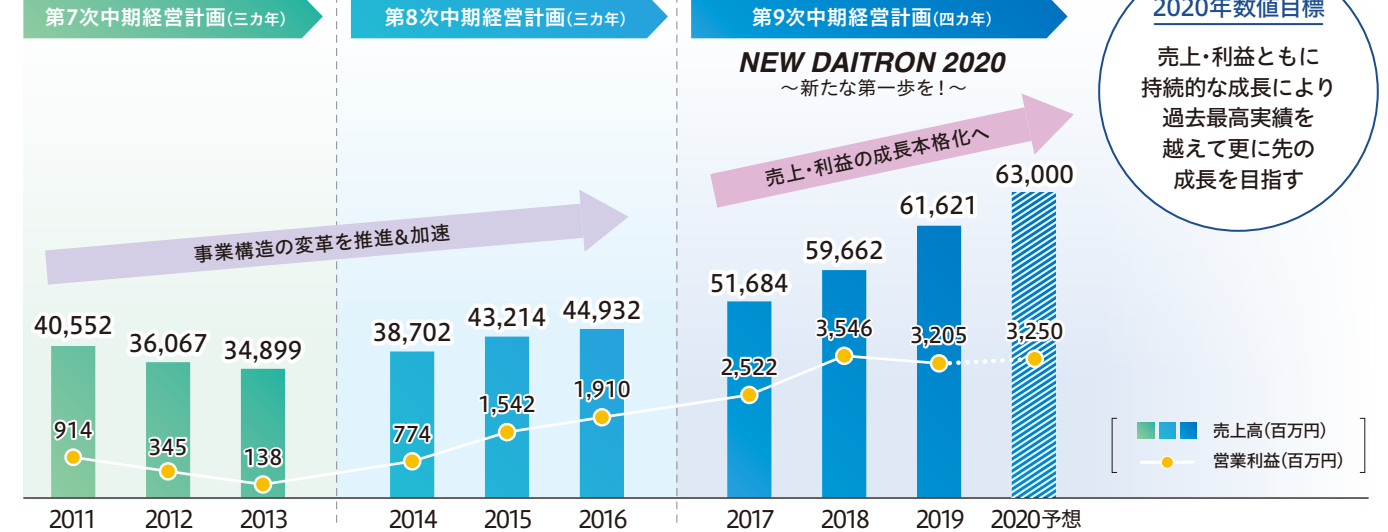
**前** ありがとうございます。2019年度は、売上高は前期比3.3%増の616億円で6期連続の増収でしたが、営業利益については残念ながら32億円で前期比9.6%減となりました。増収の要因としては、海外事業が売上・利益ともに大きく

伸長したことが貢献しています。2016年にはフィリピン(マニラ)、2019年にはベトナム(ハノイ)や中国内陸部に拠点を新設し、海外ネットワークを拡充させました。加えて、勤続10年を超える現地従業員も増えてきています。拠点拡充とともに人材も定着してきたことが、ビジネス拡大にもつながりました。韓国では設立20周年の記念パーティーが開かれ、DAITRON (KOREA) CO., LTD.社長の発案で従業員家族も招き、総勢80名規模で盛り上がりました。

**西岡** 海外でも着実にダイトロンの根を張り始めていますね。

**前** はい。一方、減益に関してですが、最大の要因は総利益率の低下です。その背景には、オリジナル製品の受注が少し落ち

### ■売上高/営業利益



込んだこと、また韓国企業、中国企業などを中心とした競争激化があります。特に2019年は、米中貿易摩擦や中東情勢などの政情不安に加えて、国内で多く発生した災害によりダメージを受けられたお客様や仕入先様もおられるなど、経済全体に悪い影響を与える要因が多く、厳しい状態が続きました。

ただこうした厳しい環境下でも、新しい事業がかなり充実してきました。そのひとつが、電源設備関連にフォーカスしたグリーン・ファシリティ事業で受注が急拡大しています。10年前の社長就任以来、事業構造改革の方針に掲げ新しい分野や市場の開拓に取り組んできましたが、先が見える状況になりました。このほかにも自動車や医療関連など伸びている分野で市場拡大を積極的に進めており、自動車産業ではADAS※という安全装置関連がコンスタントに動き出しています。

※ ADAS: 事故の可能性を事前に検知し回避する先進運転支援システム。

**西岡** 自動車産業といえば、御社もお付き合いのあるトヨタの豊田章男社長は「私は、トヨタを『自動車をつくる会社』から、『モビリティカンパニー』にモデルチェンジすることを決断しました。」と発表されましたね。

**前** そうですね。当社も変化していかなければいけないと常に思っています。

第9次中期経営計画のもと2017年に3社統合し、社名を変えカンパニー制にするなど製販融合路線を推し進めてきましたが、人材に関しても融合を進めており旧3社個別の人事制度の一本化、65歳定年制の導入などを行っています。

2020年度は  
海外とオリジナル製品開発に注力。  
目指すのは高収益性の維持・強化。

西岡 2020年度の経営方針や重点施策についてはいかがでしょうか。

前 ポイントは「利益率の改善」です。当社グループが目指すのは、成長しながら利益を確保するエクセレントカンパニーです。そのため6つの重点施策を策定していますが、そのなかでも特に「海外ビジネス展開の強化」と「オリジナル製品開発の強化」に注力していきます。

西岡 海外ビジネスを強化していくことは、長い目で見たとき、エクセレントカンパニーを実現するうえで非常に力になりますね。

前 人口ボーナス\*という観点からも、成長するなら海外と考えています。今後も引き続きネットワークの拡充を図るとともに、電子機器・部品関連事業を中心とした事業構造への転換や東南アジア等の地域に密着したビジネス展開などにより事業を拡大、海外売上高比率30%を目指します。

オリジナル製品については、現行ラインナップ製品のブラッシュアップ(改良)やD&Pカンパニーによる自社開発を進めながら、今後は仕入先やベンチャー企業等との連携による準オリジナル製品の開発を強化していきます。当社グ

ループにはない独創的な技術やアイデアを持つ連携先との協業により、Daitronブランドの強化を図ります。

※ 人口ボーナス：一国の人口構成において、子どもと高齢者の数に比べ働く世代の割合が増えている状態のこと。経済成長が促進される。

西岡 ところで近年世界的にナショナライゼーションの傾向が強まり、それによるリスクも増えています。そのことについて前社長はどのような見方をされていますか。

前 当然リスクはたくさんありますが、海外は物事のスピード感が国内と全く異なり自らが判断して動かないといけない場面が増えます。中期経営計画の「目指す姿」のひとつに「自律能動的に動く組織」と定めているように、海外事業はそうした心構えを持つ方に携わってもらいます。組織的には2018年に「海外事業本部」を設置し、本部と現地法人との間で迅速に対応できる体制を整えています。



## 第9次中期経営計画 NEW DAITRON 2020 ~新たな第一歩を!~

スローガン 「製販融合路線」により、更なる成長を目指す

2020年目標

売上・利益ともに  
持続的な成長により  
過去最高実績を越えて  
更に先の成長を目指す

オリジナル  
製品  
売上高比率  
21.9%  
(2019年度実績)  
➔ 30%

海外  
売上高比率  
27.1%  
(2019年度実績)  
➔ 30%

基本方針

長期ビジョン(基本構想)の実現に向け  
製販融合路線を目指す新たな枠組みのもとで3社統合効果(シナジー)の最大化を図る

※ 長期ビジョン(基本構想)については次ページ参照

基本戦略と  
2020年の  
重点施策

### 1 成長性重視の 事業再構築を推進

- 1 オートモティブ  
ADAS、EV関連での事業拡大
- 2 メディカル  
製薬業界、消耗品関連の  
事業拡大
- 3 ロボティクス  
多様化が進む新分野  
(サービス、介護、農業など)  
への販促

### 2 オリジナル製品開発の 強化

- 1 独自技術・  
現行ラインナップ製品の  
ブラッシュアップ  
付加価値アップ
- 2 新製品開発の強化(新分野)  
D&Pカンパニー製品開発部の  
充実した活動
- 3 仕入先との連携強化による  
準オリジナルラインナップ  
の充実

### 3 海外ビジネス展開の 強化

- 1 部品ビジネスの拡大
- 2 地域独自の事業を開発
- 3 海外拠点間の  
ビジネス連携の強化

### 4 マーケティング力& 営業力の向上

- 1 競争力のある  
仕入先(商品)開拓により  
利益率の改善を目指す
- 2 顧客製品の販売により  
リレーションを強化
- 3 複合的(システム)販売により  
付加価値の向上を図る

### 5 生産部門の統合強化

- 1 機器工場・特機工場の  
収益力アップ
- 2 グループ会社の  
生産機能の強化
- 3 生産性向上により  
付加価値を高める  
(利益率の改善)

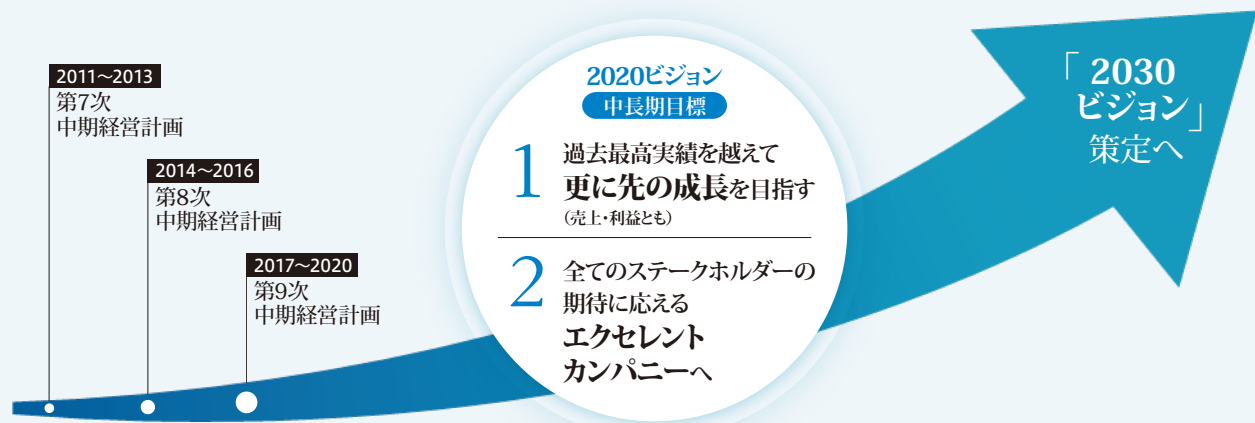
### 6 組織力&人材力の 強化

- 1 ジョブローテーション、  
キャリアパス制度により  
人材育成や活性化を図る
- 2 リスクマネジメントの強化
- 3 新人事制度の運営  
65歳定年、評価制度の充実、  
教育の高度化

次の10年に向けて

2017年1月の新生「ダイترون株式会社」誕生にあわせて長期ビジョンを策定するとともに、それを実現するための基礎としてステートメントおよび目指す姿を定めました。さらに次の10年に向けて、この10年間を振り返り新たに「2030ビジョン」の策定に取り組みます。

長期ビジョン (基本構想) 「売上・利益の成長本格化」を図り、将来的に「1,000億円企業」の実現を目指す



新たな成長ステージへ。次の10年先を見据えたビジョンを策定。

西岡 次の10年に向けた長期的展望についてお聞かせください。

前 2020年は第9次中期経営計画の最終年度であり、かつ次期中期経営計画と次の10年に向けたビジョン「2030ビジョン」を策定する大事な年です。10年前に策定した「2020ビジョン」と同様に、10年先に管理職になるだろう30歳代から人選し策

定していきます。10年先のトレンドを読み取り彼らに自由に夢を語ってみたいと思います。

西岡 これまでの長いお付き合いのなかで、御社はただ利益を上げるだけでなく、同時に働く社員の方が幸せになることも考え取り組まれています。そこが御社ならではの良さだと感じていましたが、その考えは変わらずでしょうか。

前 経営方針や戦略などは時代に応じて変えていきますが、経営理念や創業の精神は基本的に変わりません。企業理念の

グループ・ステートメント

Creator for the **NEXT**

エレクトロニクス業界を担う企業として、グループのネットワークを活かし、新しい価値をクリエイトする

目指す姿

- ◆ 製販が融合した他に類を見ないユニークな企業
- ◆ 業界にとってなくてはならない特徴ある技術・製品を有する企業
- ◆ 社員にとって働き甲斐があり、誇りに思える企業
- ◆ 一致団結の強さと同時に自律能動的に動く組織

一番目に掲げている「社員の自己実現」を第一に考え経営に取り組んでいます。

また2017年に中期経営計画を策定する際、私の思いを込めて「目指す姿」を定めました。4項目のうち「社員にとって働き甲斐があり、誇りに思える企業」「一致団結の強さと同時に自律能動的に動く組織」の2つは社内向けの内容です。これからも変わらず社員にとって働きがいのある企業であり続けたいと思います。

西岡 ありがとうございます。では最後に株主の皆様へメッセージをお願いします。

前 遺憾ながら2019年度は6期連続の増収増益にはなりませんでした。今後「過去最高実績を越えて更に先の成長を目指す」という中長期的な目標に少しでも近づくためグループ一丸となって取り組んでまいります。技術革新の早い業界だからこそ変化への対応も必要で、新しいことに積極的に挑戦してまいります。

配当金につきましては、2019年度の1株あたりの年間配当を2018年度より5円増配の60円といたしました(中間配当25円、期末配当35円)。配当性向30%程度を目安とした安定配当を実施することを基本方針に、今後も株主の皆様へ利益還元を行ってまいります。

株主の皆様におかれましては、変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



## 取締役インタビュー

## 取締役就任2年目を迎えて、思いを新たに抱負を語る

2019年に取締役に就任した土屋取締役と毛利取締役に、就任後の取り組みや今後の抱負について語っていただきました。

### 長期的な視点にたち 新たなビジネスの 創出を目指す。

取締役 / 海外事業本部長

## 土屋 伸介



は重要分野における戦略です。具体的には今後本格化していく5G(次世代通信規格)、AI、電気自動車、自動化に関連した市場への投資、生産に向けたオリジナル製品を含む商材の確保と販促に取り組んでいます。

**Q3** ご自身からみたダイトロングループの現状、また今後目指すべき姿について、どのようにお考えですか。

製販融合路線を推し進めていますが、現状はM&Sカンパニーの売上比率が大きく、事業規模からみると「国内市場向け商社機能を主体とする企業」といえます。私の考える今後当社グループが目指す姿は「連結グループ売上の海外比率が50%を超える製販技術開発機能を有するグローバル企業」です。そのため現行ビジネスの根幹を担う「電子部品・機械関連の販売・製造事業の強化」と「新規ビジネスの調査・構築」を世界市場で推し進めてまいります。

**Q4** 仕事に取り組むモットーを教えてください。

モットーは、「成功を信じ、謙虚におごることなく地道な努力を行うこと」です。

**Q5** 最後に、株主の皆様へ向けて今後の抱負をお聞かせください。

現行ビジネスだけでなく、長期視点にたった新たなビジネスの検討と創出を行い、会社の収益拡大と成長の実現、そして株主の皆様および社会への貢献を目指していきたいと思っております。

### 製販の更なる融合で より一層の プレゼンス向上へ。

取締役 / 管理本部長

## 毛利 肇



**Q1** 担当されている業務についてお聞かせください。

取締役としてダイトロングループの持続的成長のための適切な経営判断をしていく重責があります。不透明感が増す経営環境の中で経営リスクを見極め、進むべき方向を見出します。同時に管理本部長として経営基盤を支えるコーポレートガバナンスの強化・徹底と、いかなる経営環境の中でも事業をより効率的に進めるための制度や仕組みを整備・運用することに取り組んでいます。

**Q2** 取締役に就任されて1年が経ちました。就任後、特に力を入れてきた事業戦略についてお聞かせください。

3社統合にあたり3社の各種制度や仕組みを概ね一本化させましたが、細かな運用面ではまだ課題が見受けられます。本当の意味での3社統合を実現するため新たな制度と仕組みの整備を進めています。

**Q3** ご自身からみたダイトロングループの現状、また今後目指すべき姿について、どのようにお考えですか。

カンパニー制への移行や海外事業本部の設置、中部工場の建設など大きな飛躍のための準備を進めてきました。今後もエレクトロニクス業界では様々な技術革新が起これ、我々の生活も劇的に変化していきます。その技術革新をビジネスチャンスとして捉え、より一層のプレゼンス(存在感)を向上させるためにグループの強みである商社機能とメーカー機能の融合と更なる強化を進めたいと考えます。

**Q4** 仕事に取り組むモットーを教えてください。

「ポストにベスト」です。新人時代に仕事に対する姿勢として役員に教示いただき、今では私が新人研修で話すテーマの1つになっています。あまりモチベーションが上がらないときも「ポストにベスト」を抛り所にし、それぞれの立場で何ができるかを考え、できることを精一杯やりきったことで、今の自身があると考えています。

**Q5** 最後に、株主の皆様へ向けて今後の抱負をお聞かせください。

ダイトロングループが長きにわたり成長を続けられたのは、エレクトロニクス業界で必要とされてきたからです。業界にとってなくてはならない存在になることが、ダイトロングループの企業価値の向上に繋がりますので、それを実現すべく鋭意努力する所存です。

# 特集 事業戦略クローズアップ

## 技術革新の波がビジネスチャンス 自動車関連を中心に新規市場開拓へ

長期的な安定成長に向けて、9Mの基本戦略のもと成長性に基づいた事業再構築を推し進めています。前中期経営計画から取り組んできたグリーン・ファシリティ事業はデータセンター向け等の実績が大幅に増加し、大きな躍進を遂げました。また、5Gの本格導入によってすべてのモノがインターネットでつながるIoT社会の実現が更に加速。今後大きな成長が有望視される5つの市場開拓においては、需要拡大が予想される自動車関連を中心に積極的な営業開拓を推し進めてまいります。



## 海外ネットワーク拡充と現地企業との 独自ビジネス強化で、海外事業拡大へ

海外戦略のポイントを「地域に密着したビジネス展開」と位置づけ、ローカル企業との取引や日本を介さないアウト-アウトビジネスの拡大に取り組んでいます。最近では屋根などに使われる遮熱塗料が東南アジアで事業化に成功するなど、その地域独自のビジネスにも注力。アジア市場における当期売上高は前期に比べて45.4%も増加しました。また海外事業の基盤づくりとしてネットワークの拡充にも取り組んでいます。2019年にはベトナム(ハノイ)に拠点を新設。更に今後も引き続きインドや欧州圏で調査を行ってまいります。

### ■ 当期海外地域別売上高



### オートモーティブ

塗装色検査装置(測定イメージ) 3D形状計測装置

EVや自動運転技術、ADAS等、電装化の進展による自動車関連産業における電子部品、生産設備の需要拡大が見込まれ、更なる事業拡大を目指します。

## ダイトロンが挑む 新たな成長市場



### メディカル

医療用カート スwitching電源

低ノイズスイッチング電源をはじめとする高品質・高機能製品の実績を活かし、既存仕先との連携も行いながら新規開拓を進めています。

### インフラ

PCボード 産業用カスタムPC

電力供給者と消費者をデジタル通信網で結ぶ次世代通信網、スマートグリッド市場の可能性に着目。電力会社やゼネコンなどをターゲットに事業化に取り組みます。

### ロボティクス

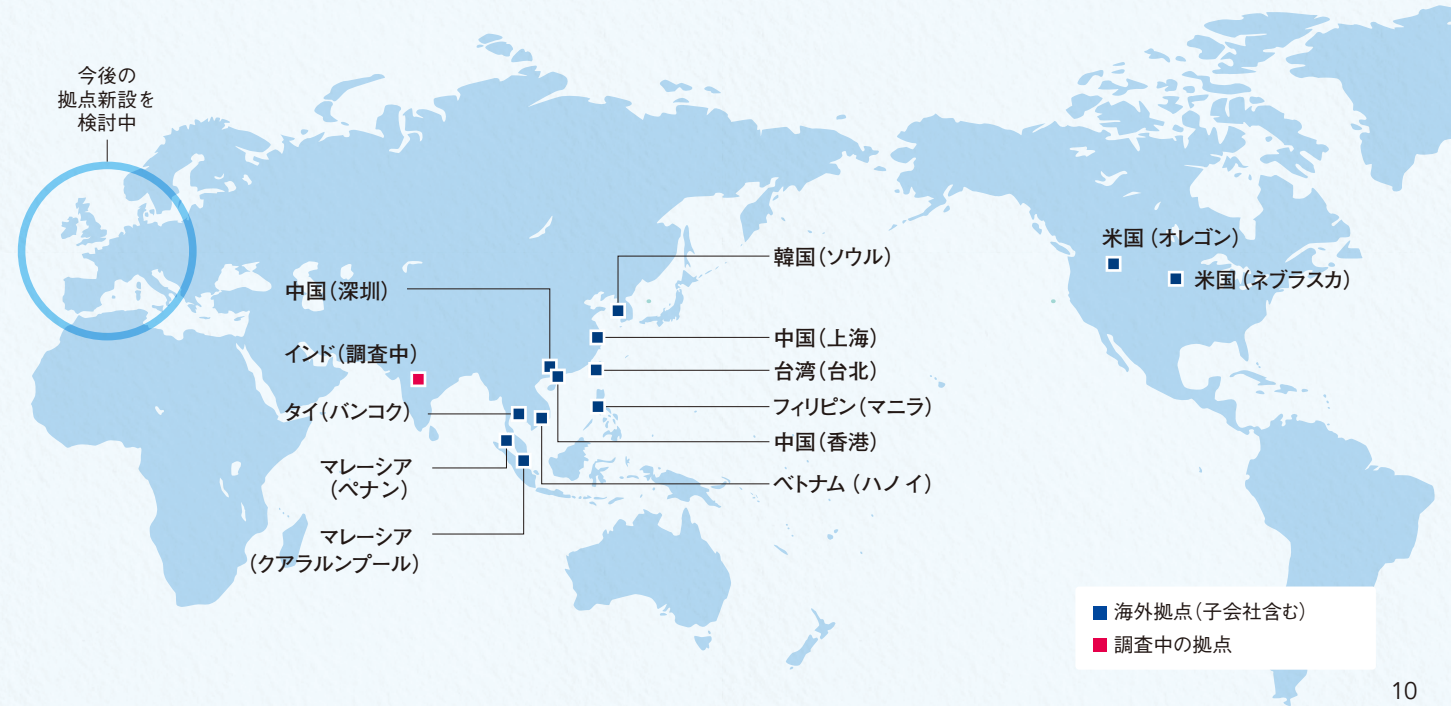
ロボ・パワー(可動用光ファイバ) カスタム電源

AIを搭載したロボットなど、今後様々な分野で活用が見込まれ、ロボット産業分野に関連する電子機器・部品の拡販を進めています。

### 航空・宇宙

3Dスキャナー 電線・ハーネス

航空・宇宙産業の世界三大拠点をめざす東海地域に建つ中部工場を中心に、高機能ハーネスや低ノイズスイッチング電源などで航空・宇宙分野の事業拡大を図ります。



## 株主・投資家の皆様との コミュニケーションの充実に努めています。

当社は全国主要都市にて開催される個人投資家向け会社説明会に参加し、株主・投資家の皆様との対話の機会を積極的に設けております。2019年8月から12月にかけては大阪・名古屋・福岡の3都市にて計4回会社説明会を開催し、多くの方にご参加いただきました。また説明会の様子を当社ウェブサイトに動画で公開するなど、オンライン上での情報発信にも力を入れております。今後も会社説明会の開催などIRイベントに積極的に取り組み、株主・個人投資家の皆様との対話の機会を設けてまいります。



### 大阪

2019年 8月31日(土)

#### 企業IR&個人投資家 応援イベント in 大阪

主催:ラジオNIKKEI  
(株式会社日経ラジオ社) /  
プロネクサス  
場所:ホテルマイステイズ新大阪  
コンファレンスセンター  
参加者数:359名

2019年 11月17日(日)

#### 個人投資家向け 会社説明会 in 大阪

主催:大和インベスター・  
リレーションズ株式会社  
場所:シティプラザ大阪  
参加者数:314名

当日の様子を  
動画配信しています



### 福岡

2019年 9月14日(土)

#### 個人投資家向け 会社説明会 in 福岡

主催:大和インベスター・  
リレーションズ株式会社  
場所:エルガーラホール8階  
『大ホール』  
参加者数:179名

当日の様子を  
動画配信しています



大阪・  
名古屋・福岡で  
計4回  
参加しました!

### 名古屋

2019年 12月7日(土)

#### 個人投資家向け 会社説明会 in 名古屋

主催:大和インベスター・  
リレーションズ株式会社  
場所:名古屋国際ホテル2階  
『老松・若竹の間』  
参加者数:285名

当日の様子を  
動画配信しています



### IR情報WEBページのご案内

<https://www.daitron.co.jp/ir/> [\[ダイترونIR\]](#) [検索](#)

当社ウェブサイト「IR情報」ページでは、株主・投資家様向け情報を適宜発信しております。IRイベントの様子は、当日来場できなかった方にもご覧いただけるよう動画を公開しておりますので、ぜひご覧ください。



「IRライブラリー」ページにて最新のIR活動動画がご覧いただけます。



当日参加者様よりいただいた  
質問の一部を紹介します。

Q 御社の製販融合路線は  
競合他社とどう違いますか?

A. 最近、電子機器の受託生産を請け負うEMS事業へ参入する商社が多いなか、当社はお客様ニーズに合わせて他社では生産していない製品を開発・製造し当社のブランドで販売することができる点で大きく異なり、当社の強みであると考えています。

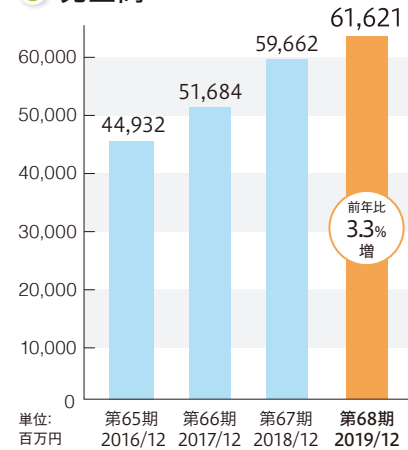
Q 今後M&Aや資本・業務提携  
などのご予定はありますか?

A. すべてに可能性が有ると思っており、良い案件があればM&Aも検討しますが、当社が今いちばん力を入れているのは、仕入先様との連携です。仕入先様とのパートナーシップをさらに強化し、オリジナル製品のラインナップ強化に向けた投資を積極的に行っていきたいと考えています。

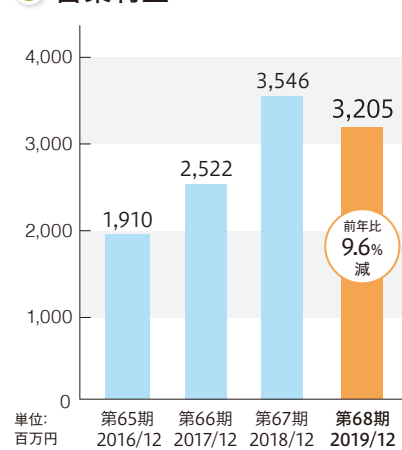
その他いただいた様々なご意見を参考に、さらなる企業発展に向けて事業に取り組んでまいります。

## 連結決算ハイライト

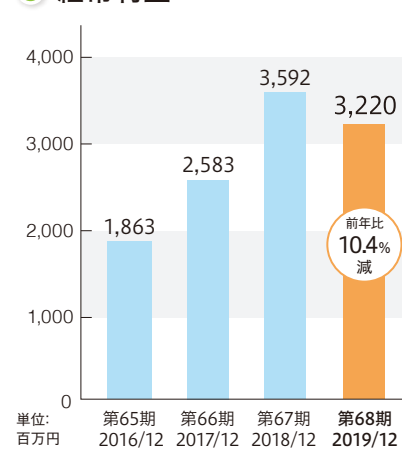
### 売上高



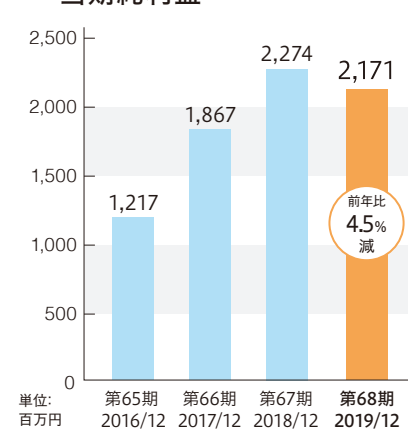
### 営業利益



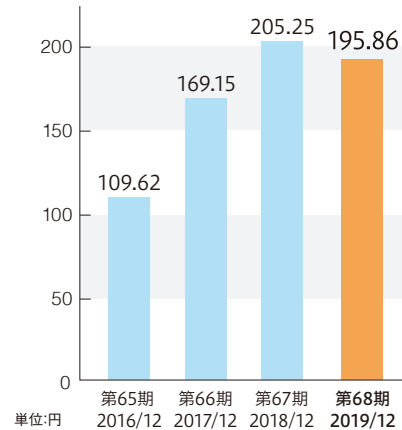
### 経常利益



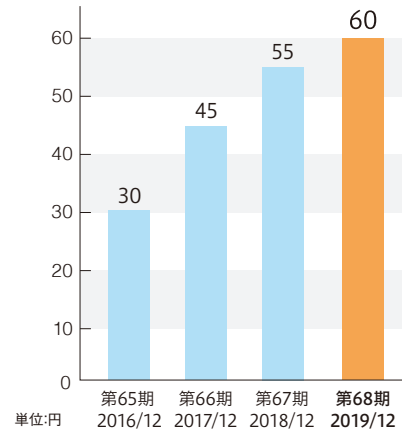
### 親会社株主に帰属する当期純利益



### 1株当たり当期純利益

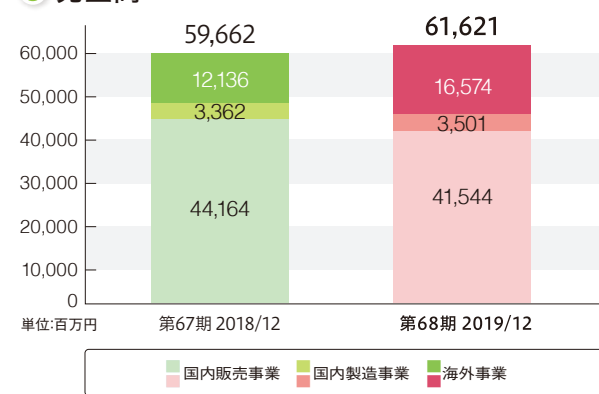


### 配当金



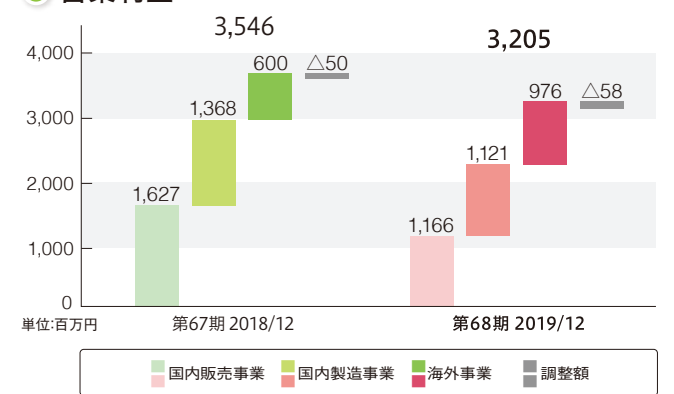
## セグメント別概況 (連結)

### 売上高



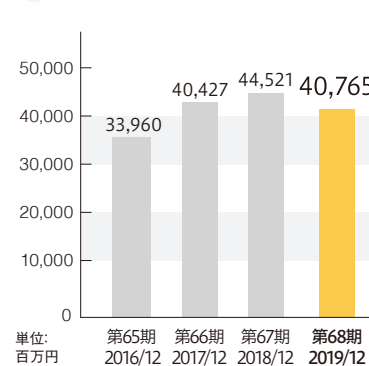
※上記売上高は、外部顧客への売上高のみ表示しております。なお、国内製造事業は、セグメント間の内部売上上の比率が大きく、セグメント間の内部売上を含めた総売上高は第67期で9,872百万円、第68期で9,962百万円です。  
 ※当期より、従来「国内販売事業」セグメントに含まれておりました当社海外事業本部と「海外子会社」セグメントを統合し、「海外事業」として報告セグメントの区分を変更しております。  
 第67期のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき遡及修正しております。

### 営業利益

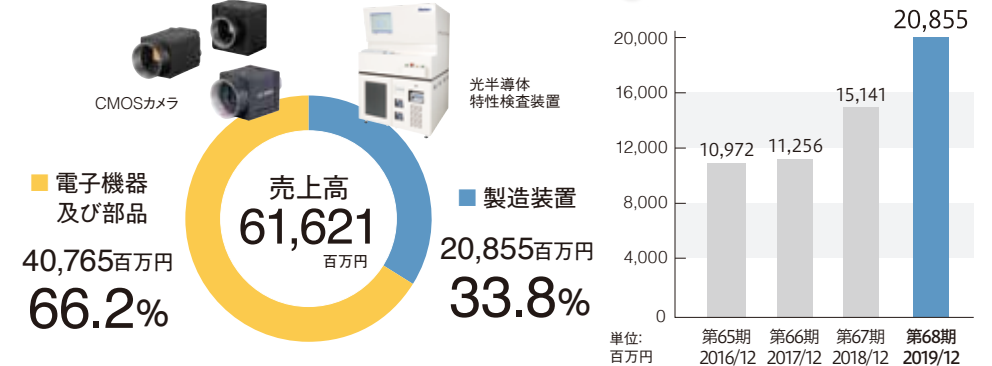
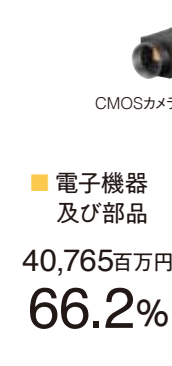


## 商品セグメント別概況

### 電子機器及び部品



### 製造装置





## ● 連結貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

科目	当期末 (2019.12.31現在)	前期末 (2018.12.31現在)
<b>●資産の部</b>		
流動資産	38,890	36,455
固定資産	6,867	6,659
有形固定資産	4,488	4,626
無形固定資産	125	115
投資その他の資産	2,253	1,918
資産合計	45,757	43,114
<b>●負債の部</b>		
流動負債	23,947	23,132
固定負債	3,044	3,004
負債合計	26,992	26,137
<b>●純資産の部</b>		
株主資本	18,485	16,975
その他の包括利益累計額	276	△1
非支配株主持分	3	3
純資産合計	18,765	16,977
負債・純資産合計	45,757	43,114

### POINT 1

#### 資産

資産は45,757百万円となり、前年同期末に比べ2,643百万円の増加となりました。その主な要因は、流動資産における現金及び預金や受取手形及び売掛金の増加、固定資産における投資その他の資産の増加によるものです。

#### 負債

負債は26,992百万円となり、前年同期末に比べ854百万円の増加となりました。その主な要因は、流動負債における前受金の増加によるものです。

#### 純資産

純資産は18,765百万円となり、前年同期末に比べ1,788百万円の増加となりました。その主な要因は、親会社株主に帰属する当期純利益の計上によるものです。

この結果、自己資本比率は41.0%となり、前年同期から1.6ポイント上昇しました。

## ● 連結損益計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	当期 (2019.1.1から 2019.12.31まで)	前期 (2018.1.1から 2018.12.31まで)
売上高	61,621	59,662
売上原価	49,138	46,843
売上総利益	12,482	12,818
販売費及び一般管理費	9,276	9,272
営業利益	3,205	3,546
営業外収益	75	126
営業外費用	60	79
経常利益	3,220	3,592
特別利益	2	3
特別損失	4	112
税金等調整前当期純利益	3,218	3,484
法人税、住民税及び事業税	1,092	1,176
法人税等調整額	△45	33
当期純利益	2,171	2,274
親会社株主に帰属する当期純利益	2,171	2,274

### POINT 2

当期業績は増収減益となりました。エレクトロニクス業界では、電子機器・部品や生産設備等の需要が堅調に推移する一方、先行き不透明な世界経済の影響により生産活動は慎重な状況が続きました。特に国内販売事業は生産設備向け製品の販売が減少し、売上・利益ともに低下。国内製造事業は開発コストが伴う新規製品の売上構成比の増加により、利益は昨年実績を下回りました。一方で、海外事業は東アジア市場で半導体・フラットパネルディスプレイ製造装置の販売が好調に推移し、売上・利益ともに大きく伸長しました。

## ● 連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	当期 (2019.1.1から 2019.12.31まで)	前期 (2018.1.1から 2018.12.31まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,377	5,502
投資活動によるキャッシュ・フロー	△313	△876
財務活動によるキャッシュ・フロー	△816	△758
現金及び現金同等物に係る換算差額	△20	△39
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,227	3,828
現金及び現金同等物の期首残高	8,923	5,094
現金及び現金同等物の期末残高	10,150	8,923

### POINT 3

#### 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、資金は2,377百万円の増加となりました。主な増加要因は、税金等調整前当期純利益と前受金の増加額によるものです。

#### 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、資金は313百万円の減少となりました。主な減少要因は、有形固定資産の取得による支出によるものです。

#### 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、資金は816百万円の減少となりました。主な減少要因は、長期借入金の返済による支出と配当金の支払いによるものです。

この結果、当期末の資金残高は前年同期から1,227百万円増加の10,150百万円となりました。

自社の発展と、持続可能な社会の実現のために、社会的責任を果たします。

● CSRについての考え方

当社のCSRは、経営理念に基づきステークホルダーとの積極的な交流を通じて事業活動に努め、その成果の拡大により、企業の持続的発展をより確かなものとする事で、社会の健全な発展に寄与し社会的責任を果たすものと考えています。

創業の精神  
行動規範

経営理念

CSR基本方針

コーポレートガバナンス基本方針

リスク管理

適時開示・  
情報管理

コンプライアンス・  
企業倫理

など

● これまでの取り組み

環境保全 ▶ ISO14001認証を取得

当社では、ISO14001認証を取得して、環境マネジメントシステムを構築し、環境汚染の予防や省エネルギーの推進、廃棄物の削減、リサイクルの実施、グリーン調達、製品含有化学物質管理の推進など、環境保全活動を全社的に推進しています。

品質・安全 ▶ ISO9001認証を取得

当社では、効果的な品質マネジメントシステムを構築して、法令や規則を遵守し、品質水準を確実に達成するため、ISO9001認証を取得しています。

社会貢献 ▶ 「ダイトロン福祉財団」の活動を支援

2001年、当社創業者である故・高本善四郎が「ダイトロン福祉財団」を設立しました。障害者就労支援事業所等への助成事業、更に障害者の社会参加や生活向上等の調査研究機関への助成事業を実施しています。当社もこうした社会貢献活動に賛同し、今後も積極的に取り組みます。

● 株式の状況

(2019年12月31日現在)

発行可能株式総数	40,000,000株
発行済株式の総数	11,155,979株
株主数	4,134名

● 大株主

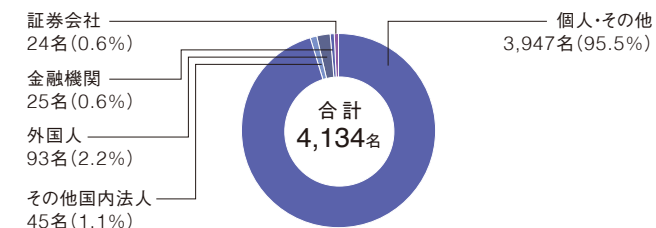
(2019年12月31日現在)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)※
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,073	9.7
公益財団法人ダイロン福祉財団	1,000	9.0
大森 有紀子	503	4.5
株式会社みずほ銀行	399	3.6
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	367	3.3
株式会社三菱UFJ銀行	363	3.3
ダイトロン従業員持株会	337	3.0
BBH LUX/DAIWA SBI LUX FUNDS SICAV-DSBI JAPAN EQUITY SMALL CAP ABSOLUTE VALUE	240	2.2
ダイトロン取引先持株会	188	1.7
日本生命保険相互会社	181	1.6

※持株比率は自己株式(66,183株)を控除して計算しております。

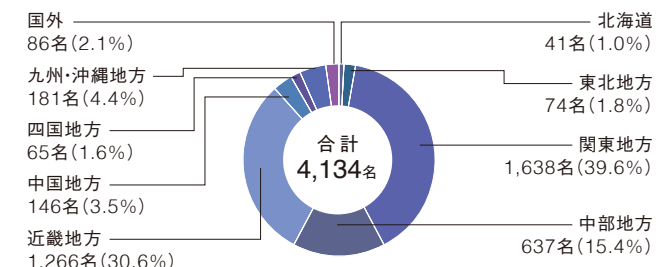
● 所有者別株主分布状況

(2019年12月31日現在)



● 地域別株主分布状況

(2019年12月31日現在)



● 株主様アンケート結果のご報告

第67期年次報告書のアンケートにおきまして、340名の株主の皆様から回答をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。皆様の貴重なご意見は更なる経営強化およびIR活動の充実のために活かしてまいります。以下に一部ですが、アンケートの結果をご紹介します。

株式の購入理由

1位 将来性	24.9%
2位 配当	17.0%
3位 事業内容	15.1%
4位 収益性	11.1%
5位 株価の割安感	8.3%

期待するIR活動

1位 ホームページでの情報提供	23.2%
2位 株主向け情報誌	23.0%
3位 事業報告書	22.3%
4位 会社説明会	12.2%
5位 株主総会	7.4%

将来性への期待の高さを受けて、社長対談や特集ページにて今後の戦略を詳しく紹介するほか、新任取締役2名の紹介ページを設け、今後の抱負などを語っていただきました。

ご意見・ご要望(抜粋)

- 5G時代に向けてセンサー技術(MSFB-02及びweb関連機器)の更なる拡充に期待しています。
- IoT、低ノイズ電源に期待しています。超長期で保有する方向で考えています。
- 今期株主総会に出席して経営者の方々の事業の取り組みが生で聞けてよかった。応援したいです。
- 大手証券会社の投資セミナーに合わせてIR説明会を実施してほしい。阪神エリアでの回数を増やしてください。
- 成長分野への更なる革新を願います。株価対策としてPRが不足。